

平成27年度 自己点検・評価報告書

目白大学短期大学部

(1) 特筆すべき事項

[教育]

- ① 学生の自律的学習を促す方策として、専任教員に科目の事前・事後学習の課題を学生に与える取り組みを行い、学生が真面目に取り組む成果を得ることができた。
- ② 短大部として資格取得に力を入れているが、リテールマーケティング1級取得1名、秘書検定準1級取得2名、MOS検定2名など難易資格にも挑戦し、成果を出しつつある。
- ③ 「ベーシックセミナー」の教員によるばらつきを少なくするため、短期大学部のワークシートを作成した28年度から使用する。
- ④ 製菓学科において、実習授業において、役割分担、進度が遅い学生を学生同士が助け合う体制づくりを指導し、効果をあげることができた。
- ⑤ 基礎学力の強化を目的として、入学予定者に対してe-learningによる3科目（自由選択で2教科を加えることができる）の自習を始めた。ほぼ全員が熱心に取り組んでいる。

[研究]

- ① 科研費継続研究2件、特別研究費取得2件であり、外部資金取得に関して低調である。
- ② 『目白大学短期大学部紀要』52号への投稿数は5本である。

[学生指導]

- ① 中退者予防・防止のため、クラス担任、ゼミ担任が週1回学生の出席をチェックし、問題のある学生に面談をする取り組みをはじめ、少しずつではあるが効果をあげつつある。
- ② 学生会主催のイベント（スポーツフェスティバル、七夕祭、桐和祭等）への積極的参加を促し、成果を得ることができた。
- ③ キャリアセンターと密に連絡をとり、学生の就職指導を強化した。キャリアセンター主催の就職関連イベントへの参加者数も増加した。

[社会貢献]

- ① 短期大学部主催の公開講座3件実施し参加者も多く、成功裡に終わった。
- ② 「神楽坂福祉施設」において、リハビリ手芸体験教室を2回実施し、学生が積極的に携わった。
- ③ 製菓学科の取り組みでは「菓子作り体験教室」の開催、桐和祭での商品販売で地域のかたに対する菓子の魅力を伝えることができた。
- ④ 米屋、ナポリ等の企業とのコラボによる新商品の開発を実施した。
- ⑤ 「大学は美味しい！！」フェアで米屋株式会社と共同開発したメジゾードら焼き、ナポリアイスクリームとのコラボで開発した新商品を販売し、好評であった。
- ⑥ 高校への出張授業を担当の先生が行った。

[組織マネジメント]

- ① 学科長連絡会を実施し、情報の共有化を図った。
- ② 教授会を有効に利用し、課題を懇談する場として利用している。
- ③ 短期大学部の取り組みに対しては、担当教員を決め、計画から実施まで責任を持って実施する体制を構築した。
- ④ 短期大学部独自の入学式、卒業式を実施した。学生の満足度は高いように感じる。
- ⑤ 学科長は各学科の教員との意思疎通を密にし、物事を機関決定するようにした。

(2) 今後の課題

[教育]

- ① 1年次秋学期開講の「キャリアデザイン」が科目担当者が授業をすることになり、クラス担任が1年次秋学期に学生を掌握することがやや困難になっている。
- ② 2学科において、定員を上回る学生が入学し、コマ数の増加、それに伴う実習室不足等がみられる。
- ③ 教員が問題のある学生の対応に注力し、上位学生への対応が手薄になりがちである。
- ④ 非常勤への学科方針等の浸透が十分ではなく、今後の課題である。

[研究]

- ① 学会誌、紀要への投稿、学会発表、学会参加が低調であり、教育、校務との兼ね合いを効率的にし、これらを促す必要がある。
- ② 学科間、短大部としての共同研究を中期計画においているが実現していない。28年度はこれらの取り組みから研究活動を活性化していきたい。

[組織マネジメント]

- ① 新しい教員が増え学科長の指導が十分であったとはいえない状況である。また、教員、助手の採用に苦慮しており、今後対策が必要である。
- ② 短期大学部では学科構成教員数の事由から、委員を重複担当せざるを得ない状況であり、適切な組織運営を検討する必要がある。

| 項目 | 自己評価 ※箇条書きにて記入 |
|----------|--|
| 教育 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前・事後学習課題をチェックする指導法では学生がまじめに取り組み、高い学習効果が得られた。 理解の程度に応じた分かりやすい資料作りや、視覚的な理解度を深めるpptを活用した授業を展開することができた。 ベーシックセミナーの一環としてスポーツフェスティバルを必修参加とし、学生交流の成果が得られた。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前・事後学習課題チェックは予想以上の負担になるため、業務とのすり合せが必要である。 やる気のない学生への喚起に注力しすぎて、成績上位学生に対する指導が手薄になることが課題である。 |
| 研究 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 学会誌論文発表は2件、『目白大学短期大学部 紀要』第52号への論文発表4件、目白大学教育研究所『人と研究』No.10への発表1件と昨年度より増加した。 書籍等出版物2件、学会発表2件、書籍物出版等2件も、昨年度より高調であった。 科学研究費基盤研究C(一般)に1名、特別研究費学術研究助成学内助成研究に1名が採択された。また、採択されなかったが、科学研究費挑戦的萌芽研究申請者1名を加えると、応募者は前年より増加した。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 学会の研究大会への出席等の学会活動には、教員8名全員1回以上参加しているが、助手の参加がなかった。 海外での学会活動に前向きに取り組む必要がある。 |
| 学生指導 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1つのゼミで台湾への短期海外研修を実施することができた。 検定受験希望者に対して、授業外時間や夏期休暇を利用して勉強会を主催し取得につなげることができた。 遅刻や欠席などの基本的な生活習慣の改善をかなり厳しく指導することができた。 学生会主催の七夕祭では、浴衣の手配・着付け等でできる限りのバックアップを行った。 桐和祭では、ゼミ有志で参加した「テーブルコーディネート」や「もの作り体験教室」を実施して好評を得た。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> クラス運営で友人グループ内の問題で不登校につながったケースに気づくのが遅れた。相談に来る学生以外の水面下の動きを把握するスキルを身につける必要がある。 卒業論文に対するモチベーションを上げるためにも、日ごろから問題意識を持たせる指導が必要である。 |
| 社会貢献 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域貢献として「神楽坂福祉施設 神楽坂」におけるリハビリ手芸の体験教室を2回実施して大好評を得た。 第50回全国私立短期大学体育大会に実行委員として参加をした。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 産学連携事業および高大連携事業に誰も関わるのがなかった。また、残りの4項目に関わった教員も半数である。多くの教員が関わりを持つことを目指す。 社会貢献項目のどの項目にも該当しない教員には、積極的にかかわることが課題である。 |
| 組織マネジメント | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 学長と3学科の中期計画委員会を中心に短期大学部中期目標・中期計画の27年度の実施状況を自己評価し、28年度の実施計画を立てた。 学科長は介護福祉コースを平成28年度に募集停止するための業務や、新フィールドの設置に向けて前向きに取り組んだ。 キャリア委員会委員は、教員内の学生動向に関する情報共有を図るためのツールを立案実施した。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 各種委員会委員として前向きに職務は遂行したが、理解力不足や経験不足でマネジメント不足となったケースが散見されたので、新担当者は特に、前任者との引き継ぎを密にするなどの対策を講じる必要がある。 学科会議開催日を特任教員の出勤日との兼ね合いで教授会後に開催していたので、急ぎの案件に関する対応に遅れが見られた。次年度は、委員会日程を調整して開催日の変更を検討する。 |
| その他 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 短期大学部公開講座を2回開催した。急な教員の体調不良等で厳しい状況も発生したが、多くの参加者に満足していただくことができた。 <p>(2)今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 教員全員で短期大学部の将来像や方向性を検討していく雰囲気醸成する必要がある。 目白大学短期大学部研究紀要の規定・規則の整備が必要である。 |

| 目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価 | | 学科用評価シート | 組織名称（評価单位名称） | 製菓学科 |
|---------------------------|---|----------|--------------|------|
| 項目 | 自己評価 ※箇条書きにて記入 | | | |
| 教育 | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 実習班単位の授業では学生同士が自身の役割を認識し協力し合いながら思いやりを持って作業が進められるように指導することを心掛け、個人作業ではそれぞれの理解度、技術習得度に合わせた指導ができた。</p> <p>② 課題であった「ベーシックセミナー」での基礎学力向上は確認テストによって基礎学力不足を認識させ、キャリアセンター等のSPI対策講座に繋がっている学生が少しずつ増えてきている。</p> <p>③ 困り感のある学生が多かったことから教員としての力が試される一年になった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 実習科目における一貫した教育に関しては専任の担当教員間では遅れている学生の対応方法など密な申し送りや検討がなされているものの、非常勤(特任)の担当教員まで浸透できているかという点で不足を感じる点であり課題と言える。</p> <p>② 日常的な礼儀作法が出来ない学生もおり、挨拶の必要性、大切さを教員も認識しながら授業を通して引き続き指導していきたい。</p> | | | |
| 研究 | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 製菓に関する紀要を発表し専任教員が研究などに値する製菓学科業務を遂行した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発は学生のアイデアを活用する為企画コンテストを実施してレベルの高いジェラートを商品化できるよう引き続き継続する。</p> | | | |
| 学生指導 | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 面談結果を学科会議で共有したり就職活動状況をリストにまとめることで学科全体で学生をフォローし柔軟な対応をとった。一方で困り感のある複数の学生への支援に多くの時間を必要とした。</p> <p>② 保護者会の開催で在校生、卒業生に出席してもらい、就職活動の流れ就職してからの人との接し方業務方法などを発表してもらい保護者との細やかな情報を共有し信頼関係の構築に努めた。</p> <p>③ 聴覚障害のある学生が関係各位との協力により2年間の支援が実を結び無事卒業就職することが出来た。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 就職活動指導は面談も含め細やかな声かけや学科内教員間での密な状況報告による連携した就職活動支援に当たれたと思うが、次年度以降は支援や指導が困難にならない最終学期中に内定100%の実現を目指した指導や支援に当たりたい。</p> <p>② 実習室以外での白衣着用禁止は徹底されたが実習室の土足禁止については課題が残ったため次年度に向けて更なる徹底を目指す。</p> <p>③ 精神的な障害や学習障害・発達障害等の学生対応は、担任が中心となって取り組むということは重々承知しているものの卒業まで導くためには全学上げてのケアシステム作りが必要であると考え。</p> | | | |
| 社会貢献 | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 桐和祭での商品販売、喫茶販売などを通して、地域の方々と交流を図り、菓子の魅力を伝えることが出来た。</p> <p>② 「製菓学科体験十週」の実施により地域に菓子作りを通して貢献できた。</p> <p>③ 「販売実践」の授業における売上金全額を、東日本大震災への義援金として日本赤十字社に継続寄付した。</p> <p>④ 「公開講座」により製菓学科を最大限アピールできた。</p> <p>⑤ 高校への出張授業を実施し菓子作りの楽しさを伝えるとともに学科の周知が出来た。</p> <p>⑥ 「大学は美味しい！！」フェアで米屋株式会社と共同開発したメジゾーどら焼きを販売して大変好評を得ることが出来た。また第1回大福アイデアコンテストの実施に至った。</p> <p>⑦ 株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発は学生のアイデアを活用する為企画コンテストを実施してレベルの高いジェラートを商品化した。</p> <p>⑧ 中学・高校生を対象とした「スイーツコンテスト」を実施して、53名の応募者があった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① 和菓子・洋菓子両方の企業コラボは達成したが、今後は話題性だけでなく現実的な利益を見込んだ商品開発やイベント企画などが必要となる。</p> <p>② 新宿区消費生活センター分館での製菓体験実習は高い満足度を得たが、学外での実習イベントは貴重な機会なので単発イベントで終わらず今後新宿区との継続的な連携が望まれる。</p> <p>③ 「製菓学科体験実習」を通して近隣の子供たちに菓子作りの楽しさ、親子で菓子を作ることの楽しさを引き続き体験させたい。</p> <p>④ 教員のゆとりの無さ、マンパワーの不足から今後社会的貢献、地域貢献について検討したい。</p> <p>⑤ 平成29年度の「大学は美味しい！！」フェアで販売に向けメジゾーどら焼きの新しいレシピ開発を引き続き行っていく。</p> <p>⑥ 引き続き「スイーツコンテスト」の開催を通して高校の先生方に本学科をアピールできるよう再度検討する。</p> | | | |
| 組織マネジメント | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>① 学外及び保護者、学内に完成した作品を通じて製菓学科の授業を周知する目的でメジスイーツblogを継続管理し閲覧数も安定して上向いている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>① メジスイーツblogは、今後も本学科の受験を検討している人々に授業内容及び日常の取り組みを公開することにより、これまで以上に本学科の理解が深められ魅力をアピールできるように管理する。</p> <p>② 危機管理「食品取扱マニュアル」を遵守し遂行していく。</p> | | | |
| その他 | <p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>助手の早期退職があり今後の助手に対する対応管理に関しては重用課題と考えたい</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>平成24年度に初めて開催した「卒業生の集い」を発展させ将来的には「製菓学科・校友会」の足掛かりとしたい。</p> | | | |

| 目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価 | | 学科用評価シート | 組織名称（評価单位名称） | ビジネス社会学科 |
|---------------------------|--|----------|--------------|----------|
| 項目 | 自己評価 ※箇条書きにて記入 | | | |
| 教育 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全国の短期大学で唯一のリテールマーケティング1級合格1名、および3級についても22名の合格者を輩出した。 ②1年生秘書検定2級25名（取得率37.8%）、2年生準1級2名の取得者を輩出した。 ③MOS検定においても、2名の合格者を輩出した。 ④「出席率の向上」「脱落率の低減」を目標として、クラス・ゼミ運営を実施、頻繁な学生とのコンタクトおよび保護者との電話・面談を実施、期末結果として1年・2年の退学・留年学生を共に減少させ、不十分ながら目標へ一歩前進させた。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成27年度から1年生「キャリアデザイン」授業が担当ではなくなった為、学生とのコミュニケーション機会が減少し、クラス担任として学生の個人認識・状況把握がやや厳しくなった環境変化への対策を確立する。 ②定員を上回る体制が継続しており、授業や個別指導など多方面での教員の戸惑いを克服する対策と体制を構築する。 | | | |
| 研究 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①科学研究費継続者2名、学内特別研究助成獲得者1名 ②「目白大学短期大学部 紀要」第52号への論文発表者1名 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新規の科学研究費獲得者はゼロであり、次年度へ向けての対策を検討する。 ②科学研究費継続者も学内特別研究助成獲得者も、共に成果の取り纏めおよび論文作成には至っていない状況への対策を検討する。 ③「目白大学短期大学部 紀要」への執筆を始め、学会誌への投稿などへの促進対策を検討する。 ④一部教員に学会研究会への参加が少ない状況の改善策を検討する。 | | | |
| 学生指導 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎週月曜日に学生の出欠集計状況を確認し情報の把握を行い、学生への電話指導・個人面談を実施した。また得た情報は学科内全教員で共有する事で常に誰もがどこでも即応できる体制を構築した。 ②遅刻・欠席が目立つ学生には、担任のみならず全教員が授業時に注目して対応策（注意・カウンセリング）を実施した。 ③キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就活セミナーへの参加率が他学科に比べ高く、将来に関する意識付け対策が向上した。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1年生であり已むえない状況を認識し、将来の就職活動に対して意識・知識（仕組など）が低い学生への対策を実施する。 ②採用活動として開催される昨今の新しいインターシップスタイルに対する学生認識変革と積極的な参加意識増大対策を実施する。 ③定員を上回る体制が継続しており、授業や個別指導など多方面での教員の戸惑いを克服する対策と体制を構築する。特に学生と接する際の教員対応（非常勤教員も含）の統一を図り、社会人としての認識を学生に意識させる対策（状況を見極めでのON/OFF切替と言葉遣い）を構築する。 | | | |
| 社会貢献 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新宿区総務課と連携し、学生12名が夏休み期間中に「平和記念誌（戦争体験者へのインタビュー）」の制作・発行に参加した。 ②例年の活動として、文京区本郷法人会の「財務諸表講座」、株式会社トーハンの流通業講座、都立農業高校の販売士講座を開催した。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①研究活動の一環として、または国・地方公共団体等委員として活動を計画したものの、今年度の活動実績なかったとの総括が多くの教員から報告されており、次年度以降の積極的な活動再開を推進する。 ②学会、協会役員等に携わる教員は1名、地域貢献に参加した教員も1名しかいない状況であり、今後できるだけ多くの教員が積極的に係る事を期待し推進する。 | | | |
| 組織マネジメント | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多くの教員が複数の担当委員やイベント担当として職務を理解し精力的に遂行し、ある程度の成果を達成した。 ②常に同一レベルの情報を共有化した上で、目標に向かって活動を押し進める環境づくり設定の為、月1回の学科会議に拘らず臨時的な学科会議を開催し、学生対応/学科・短期大学部対応/保護者対応などすべての面での即応体制を一定レベルまでに構築した。 ③学科長と教員とのコミュニケーションの活発化を目指した「つぶやきの収集」の取組みを実践（提案・実行型組織の確立）した。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次年度導入新フィールドに関する運営詳細（非常勤講師採用含）・学科としての支援体制構築に向けての準備作業を確立する。 ②専任教員1名欠員の適任者補充、その結果を考慮した上で学科所属教員の担当授業の構成体制について検討する。 ③学科構成教員数の事由から、多くの教員が委員会・その他業務担当を重複している現状を直視し、適切な組織運営について検討する。 | | | |
| その他 | <p>(1)特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①10月の桐和祭開催時に、ビジネス社会学科として「ホームカミングデイ」を企画したが、初めての試みで周知が不十分であったため、少人数の参加に終わった。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①上記したように「ホームカミングデイ」を開催したが、企画内容・参加人数が不十分であった為、次年度の万全な準備を計画する。 ②短期大学部公開講座開催については、情宣および集客が課題であり、短期大学部として余裕を持った企画・活動を展開する。 ③入学定員確保を目指して、オープンキャンパス企画の再点検・充実および入試広報部と教員のコラボ活動の可能性を検討する。 | | | |